

## 地 理 歴 史

### 1 教育課程研究協議会の経過（平成21年度～24年度）

平成21年度から平成24年度の教育課程研究協議会において、地理歴史科では「世界史」、  
「日本史」、「地理」の3分科会を設け、それぞれ説明及び研究協議を行った。

平成21年度から平成24年度までの手引及び教育課程研究協議会の概要は次のとおりである。

|        | 手 引 の 概 要   | 説 明 及 び 協 議 の 概 要  |
|--------|---|--|
| 平成21年度 | 1 改訂の基本方針と教科の目標<br>2 地理歴史科における科目構成<br>3 各科目における改訂の内容<br>4 科目の導入時期の内容の取扱い等                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の改善の視点</li> <li>・地理歴史科の目標及び各科目の目標、内容の構成、内容の取扱い</li> <li>・思考力、判断力の育成を図る実践事例の交流等</li> </ul>                |
| 平成22年度 | 1 指導計画の作成と各科目の内容構成<br>2 世界史における主題を設定して行う学習<br>3 日本史における歴史を考察し表現する学習<br>4 地理における歴史的背景を踏まえた考察 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理歴史科の目標及び各科目の目標、内容の構成、内容の取扱い</li> <li>・探究する学習や考察し表現する学習を取り入れた実践に関する意見交換等</li> </ul>                           |
| 平成23年度 | 1 教育課程の編成の考え方と配慮すべき事項<br>2 各科目における指導計画の例<br>3 言語活動の充実を図る学習指導の実践例<br>4 中学校社会科との関連及び科目相互の関連   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の内容の構成、内容の取扱い</li> <li>・教育課程の編成における配慮事項</li> <li>・言語活動を取り入れた実践に関する意見交換等</li> <li>・領土や人権に関する学習の充実</li> </ul> |
| 平成24年度 | 1 学習指導の改善・充実<br>2 評価方法の改善・充実<br>3 各科目における学習評価の具体例<br>4 地理歴史科におけるキャリア教育の推進                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導と学習評価の工夫・改善</li> <li>・思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上を図る実践事例の交流等</li> <li>・領土や人権、消費者に関する学習の充実</li> </ul>           |

### 2 指導と評価を円滑に行うための年間指導計画の作成

#### (1) P D C A サイクルの確立

生徒一人一人に学習指導要領が示す内容を確実に定着させるためには、学習指導と学習評価に係る P D C A サイクルを確立し、学習指導と学習評価の一体的な取組を進める必要がある。

##### 【学習指導と学習評価に係る P D C A サイクル】

- ① P L A N : 年間指導計画や単元の指導と評価の計画等の作成
- ② D O : 指導計画に基づく授業の実施
- ③ C H E C K : 生徒の学習状況及び教師自身の指導計画等の評価
- ④ A C T I O N : 評価を踏まえた授業の充実や指導計画の改善



#### (2) 単元の評価の在り方

各学校で年間指導計画を検討する際、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落とししていないかを確認するだけでなく、必要以上に評価の機会を設けて評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぎ、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。

さらに、各学校においては、評価が学期末などに偏ることのないよう、評価の時期を工夫したり、学習の過程における評価を一層重視したりするなど、評価の場面についても工夫する必要がある。

### 3 観点別学習状況の評価の総括

#### (1) 単元（題材）における総括

単元（題材）における観点ごとの総括を行う方法としては、指導の目標及び内容と対応させて設定した評価規準に照らして、各規準ごとにA（十分満足できる）、B（おおむね満足できる）、C（努力を要する）

の3段階で評価を行い、A、B、Cの個数の割合に基づく方法や、A、B、Cを数値に換算して集計する方法などが考えられる。

また、特定の評価の機会における結果について重み付けを行って総括する方法（表1）も考えられる。

表1 単元(題材)における総括の例(観点ごとに特定の評価の機会における結果について重み付けを行った例)

| 次                                       | 重み付けと総括\観点 | 関心・意欲・態度              | 思考・判断・表現              | 資料活用の技能                        | 知識・理解                 |
|---|------------|-----------------------|-----------------------|--------------------------------|-----------------------|
| 第1次                                     | 評価方法       | ワークシート                | ワークシート                | 資料の収集                          | —                     |
|   | 重み付けの割合    | 40%                   | 20%                   | 30%                            | —                     |
|   | 各観点における評価  | A                     | A                     | B                              | —                     |
|   | 各観点での評価の総括 | A×4                   | A×2                   | B×3                            | —                     |
| 第2次                                     | 評価方法       | ノート                   | ワークシート                | —                              | ノート                   |
|   | 重み付けの割合    | 40%                   | 20%                   | —                              | 20%                   |
|   | 各観点における評価  | B                     | A                     | —                              | B                     |
|   | 各観点での評価の総括 | B×4                   | A×2                   | —                              | B×2                   |
| 第3次                                     | 評価方法       | 観察                    | レポート                  | 資料の収集と作成                       | ワークシート                |
|   | 重み付けの割合    | 20%                   | 40%                   | 50%                            | 20%                   |
|   | 各観点における評価  | A                     | B                     | C                              | B                     |
|   | 各観点での評価の総括 | A×2                   | B×4                   | C×5                            | B×2                   |
| 第4次                                     | 評価方法       | —                     | ペーパーテスト               | ペーパーテスト                        | ペーパーテスト               |
|   | 重み付けの割合    | —                     | 20%                   | 20%                            | 60%                   |
|   | 各観点における評価  | —                     | B                     | A                              | C                     |
|   | 各観点での評価の総括 | —                     | B×2                   | A×2                            | C×6                   |
| 単元の評価の総括<br>(各観点とも、重み付けの割合の合計は100%となる。) |            | Aが6個、Bが4個、<br>よって「A」。 | Aが4個、Bが6個、<br>よって「B」。 | Aが2個、Bが3個、<br>Cが5個、<br>よって「B」。 | Bが4個、Cが6個、<br>よって「C」。 |

※ 観点ごとに重み付けを取り入れて評価を行っている。例えば、「関心・意欲・態度」の観点では、第1次と第2次における評価を重視して重み付け（それぞれ40%）を行っていることから、第1次：第2次：第3次＝4：4：2となり、この比率に応じて単元の評価の総括を行っている。

※ ここでは、単元の各観点の評価の総括においては、Aが全体の6割以上を占める場合はA、Cが全体の6割以上を占める場合はC、それ以外の場合をBとしている。

#### (2) 学年末における総括

学年末において観点ごとに総括を行う方法としては、単元（題材）ごとの観点別評価を総括する方法（表2）などが考えられる。

表2 学年末における総括の例

| 内容のまとめ   |        | 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 資料活用の技能   | 知識・理解  |
|----------|--------|--|--|---|--|
| 大項目(1)   | 中項目(1) | A  | B  | B   | C  |
|          | 中項目(2) | A  | A  | B   | C  |
| 大項目(1)総括 |        | A  | B  | B   | C  |
| 大項目(2)   | 中項目(1) | A  | A  | A   | B  |
|          | 中項目(2) | A  | A  | A   | B  |
| 大項目(2)総括 |        | A  | A  | A   | B  |
| 大項目(3)   | 中項目(1) | A  | B  | A   | C  |
|          | 中項目(2) | A  | B  | A   | B  |
| 大項目(3)総括 |        | A  | B  | A   | C  |
| 点数化      |        | $\frac{(A \times 3) \div 3}{=(3 \text{点} \times 3) \div 3}$<br>=3.0点 | $\frac{(A+2 \times B) \div 3}{=(3 \text{点} + 2 \text{点} \times 2) \div 3}$<br>=2.33点 | $\frac{(A \times 2 + B) \div 3}{=(3 \text{点} \times 2 + 2) \div 3}$<br>=2.67点 | $\frac{(B+C \times 2) \div 3}{=(2 \text{点} + 1 \text{点} \times 2) \div 3}$<br>=1.33点 |
| 学年末評価    |        | A  | B  | A   | C  |

※ 点数化の欄では、A＝3点、B＝2点、C＝1点とする。

※ 学年末評価の欄では、2.5点＜A、1.5点≦B≦2.5点、C＜1.5点とする。

#### (3) 評定への総括

評定への総括の方法としては、学年末に総括した観点ごとの評価を点数化し、4つの観点の評価の平均値をもとに算出する方法（表3）や、観点別の評価結果のA、B、Cの数に応じて、評定を決める方法（表4）などが考えられる。

表3 評定への総括の例1

| 評価の観点  | 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|--------|---|----------|---------|-------|
| 学年末総括  | A   | B        | A       | C     |
| 点数     | 5   | 3        | 5       | 1     |
| 評定の算出式 | $(5 \text{点} + 3 \text{点} + 5 \text{点} + 1 \text{点}) \div 4$ (観点の数) = 3.5 (平均値) |          |         |       |
| 評定     | 4   |          |         |       |

表4 評定への総括の例2

| 組合せの例 | 評定 |    | 組合せの例 | 評定 |    |
|-------|----|----|-------|----|----|
|       | 例1 | 例2 |       | 例1 | 例2 |
| AAAA  | 5  | 5  | AACC  | 3  | 3  |
| AAAB  | 4  | 5  | BBBC  | 3  | 3  |
| AABB  | 4  | 4  | ABBC  | 2  | 3  |
| AAAC  | 4  | 4  | BBCC  | 2  | 2  |
| AABC  | 3  | 4  | ACCC  | 2  | 2  |
| ABBB  | 3  | 3  | BCCC  | 1  | 2  |
| ABBC  | 3  | 3  | CCCC  | 1  | 1  |
| BBBB  | 3  | 3  |       |    |    |

#### 4 年間指導計画と単元の指導と評価の例

##### (1) 「世界史A」の年間指導計画等の例

**【年間計画に評価計画を位置付けた指導計画の例】(一部)**

|       |  |  |   |      |   |     |     |
|-------|--|--|---|------|---|-----|-----|
| 教科名   | 地理歴史   | 科目名                                    | 世界史A  | 履修学年 | 第1学年  | 単位数 | 2単位 |
| 科目の目標 | 近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 |  |   |      |   |     |     |
| 月     | 週数   | 単元(項目)                                 | 指導のねらい  | 時数   | 評価の観点及び評価の方法  |     |     |
| 9     | 3  | (2) 世界の一体化と日本<br>ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 | 産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。 | 10   | <b>【関心・意欲・態度】</b><br>・産業革命の背景や国民国家形成の動きなどに対する関心を高め、意欲的に追究している。<br>(ワークシート、活動観察)<br><b>【思考・判断・表現】</b><br>・産業革命の背景や国民国家形成の動きなどについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(ワークシート、ノート、発表、ペーパーテスト)<br><b>【資料活用】の技能】</b><br>・産業革命の背景や国民国家形成の動きなどに関する諸資料の収集や適切な選択し読み取ったりまとめたりしている。<br>(ワークシート、ノート、ペーパーテスト)<br><b>【知識・理解】</b><br>・産業革命の背景や国民国家形成の動きなどについて理解し、その知識を身に付けている。<br>(ワークシート、ノート、ペーパーテスト) |     |     |
| 10    | 2  |  |   |      |   |     |     |
| 計     | 35   |  |   | 70   |   |     |     |

※年間計画に評価計画を位置付けた。

※年間指導計画に基づき単元の指導と評価の計画を作成。

**【学習課題を明確に示した単元の指導と評価の計画の例】(一部)**

|       |  |  |  |   |      |   |   |
|-------|--|--|--|---|------|---|---|
| 単元名   | ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 (10時間)   |  |  |   |      |   |   |
| 単元の目標 | 産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。<br>(単元の中心となる問い)<br>ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成はどのように進行し、どのような影響をもたらしたのだろうか。 |  |  |   |      |   |   |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 資料活用   | 知識・理解   |      |   |   |
| 評価規準  | ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。  | ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成の背景や影響について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 | ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成に関する諸資料を適切に収集・選択し、情報を読み取ったり図表にまとめたりしている。 | ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成の背景や影響について理解し、その知識を身に付けている。 |      |   |   |
| 時程    | 学習活動   | 評価の観点  |  | 学習活動における評価規準  | 評価方法 |   |   |
|       |  | 関  | 思  | 技   | 知    |   |   |
| 第9時   | 【本時のねらい】<br>アメリカ合衆国の西部への領土拡張の過程について先住民の強制移住と関連付けながら理解させるとともに、南北戦争後の工業化の急速な進展や黒人への抑圧について考察させる。<br>(本時の中心となる問い) アメリカ合衆国は、19世紀にどのような発展を遂げたのだろうか。      | ◎  | ◎  | ◎   | ◎    | ◎ | ◎ |
|       | ・西部への領土拡張の過程を、教科書などを調べながらワークシートにまとめ、理解する。<br>・南北戦争後のアメリカ合衆国の経済や社会について諸資料を読み取り考察し、ワークシートにまとめる。  | ◎  | ◎  | ◎   | ◎    | ◎ | ◎ |
|       |  | ◎  | ◎  | ◎   | ◎    | ◎ | ◎ |
| 計10時間 | 本単元での評価の機会   | 2回   | 3回   | 2回  | 3回   |   |   |

※単元の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。

※本時の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。

※評価の実際についてはH24手引参照。

◆ 単元における評価の観点ごとの総括について  
 例えば、本単元における「思考・判断・表現」の観点については、評価の場を第1時、第9時、第10時に設定し、ワークシートの取組状況や定期考査の結果を中心として得られた評価結果を基に総括を行うこととした(評価の総括については、本手引18ページ参照)。

(2) 「日本史B」の年間指導計画等の例

**【年間計画に評価計画を位置付けた指導計画の例】(一部)**

|       |  |                                   |  |      |   |     |     |
|-------|--|-----------------------------------|--|------|---|-----|-----|
| 教科名   | 地理歴史   | 科目名                               | 日本史B   | 履修学年 | 第2学年  | 単位数 | 4単位 |
| 科目の目標 | 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 |                                   |  |      |   |     |     |
| 月     | 週数   | 単元(項目)                            | 指導のねらい   | 時数   | 評価の観点及び評価の方法  |     |     |
| 10    | 4  | (3) 近世の日本と世界<br>ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容 | 幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。 | 9    | <b>【関心・意欲・態度】</b><br>・幕藩体制が動揺していく背景などについて関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。<br>(ワークシート、活動観察)<br><b>【思考・判断・表現】</b><br>・幕藩体制が動揺していく背景などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(ワークシート、ノート、発表、ペーパーテスト)<br><b>【資料活用の技能】</b><br>・幕藩体制が動揺していく背景などに関する諸資料の収集や適切な選択し読み取ったりまとめたりしている。<br>(ワークシート、ノート、ペーパーテスト)<br><b>【知識・理解】</b><br>・幕藩体制が動揺していく過程や背景などについて理解し、その知識を身に付けている。<br>(ワークシート、ノート、ペーパーテスト) |     |     |
| 計     | 35   | ※年間指導計画に基づき単元の指導と評価の計画を作成。        |  | 140  |   |     |     |

※年間計画に評価計画を位置付けた。

**【学習課題を明確に示した単元の指導と評価の計画の例】(一部)**

|       |  |   |   |  |      |                 |
|-------|--|---|---|--|------|-----------------|
| 単元名   | 産業経済の発展と幕藩体制の変容(9時間)   |   |   |  |      |                 |
| 単元の目標 | 幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。 |   |   |  |      |                 |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 資料活用の技能   | 知識・理解  |      |                 |
| 評価規準  | 近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。   | 近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成から課題を見だし、欧米諸国のアジアへの進出などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、情報を読み取ったり図表にまとめたりしている。 | 近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成についての基本的な事柄を、欧米諸国のアジアへの進出などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 |      |                 |
| 時程    | 学習活動   | 評価の観点   |   | 学習活動における評価規準   | 評価方法 |                 |
|       |  | 関   | 思   | 技  | 知    |                 |
| 第4時   | ・享保の改革の諸政策のねらいや内容について、教科書などを調べながらノートにまとめ、理解する。<br>・諸資料を読み取り、百姓一揆の増加など、享保の改革以降の諸問題についてワークシートにまとめる。                    | ◎   |   | ◎  |      | ・ノート<br>・ワークシート |
| 計9時間  | 本単元での評価の機会   | 3回  | 3回  | 3回   | 4回   |                 |

※本時の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。

※評価の実際についてはH24手引参照。

◆ 単元における評価の観点ごとの総括について  
 例えば、本単元における「関心・意欲・態度」の観点については、評価の場面を第3時、第4時、第9時に設定した。なお、この観点については、学習の深まりにつれて関心・意欲が高まっていくという点に留意し、第9時における評価に重み付けをして(第3時は25%、第4時は25%、第9時は50%)、総括を行うこととした(評価の総括については、本手引18ページ参照)。

(3) 「地理B」の年間指導計画等の例

| 【年間計画に評価計画を位置付けた指導計画の例】(一部) |      |  |   |      |   |     |     |
|-----------------------------|------|--|---|------|---|-----|-----|
| 教科名                         | 地理歴史 | 科目名  | 地理B   | 履修学年 | 第1学年  | 単位数 | 4単位 |
| 科目の目標                       |      | 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 |   |      |   |     |     |
| 月                           | 週数   | 単元(項目)   | 指導のねらい  | 時数   | 評価の観点及び評価の方法  |     |     |
| 10                          | 4    | (2) 現代世界の系統地理的考察<br>ウ 人口、都市・村落   | 世界の人口、都市・村落などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。 | 14   | <b>【関心・意欲・態度】</b><br>・世界の人口、都市・村落に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。<br>(ワークシート、活動観察)<br><b>【思考・判断・表現】</b><br>・世界の人口、都市・村落について、分布や動向などを系統地理的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(ワークシート、ノート、発表、ペーパーテスト)<br><b>【資料活用の技能】</b><br>・世界の人口、都市・村落に関する諸資料を収集し、適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。<br>(ワークシート、ノート、ペーパーテスト)<br><b>【知識・理解】</b><br>・世界の人口、都市・村落の分布や動向などについて理解し、その知識を身に付けている。<br>(ワークシート、ノート、ペーパーテスト) |     |     |
| 計                           | 35   | ※年間指導計画に基づき単元の指導と評価の計画を作成。   |   | 140  |   |     |     |

| 【学習課題を明確に示した単元の指導と評価の計画の例】(一部) |  |   |  |   |  |              |  |
|--------------------------------|--|---|--|---|--|--------------|--|
| 単元名                            | 人口、都市・村落 (14時間)  |   |  |   |  |              |  |
| 単元の目標                          | 世界の人口、都市・村落などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。<br><br><単元を中心となる問い><br>なぜ、世界の人口、居住・都市に関わる問題は、地域によって異なるのだろうか。 |   |  |   |  |              |  |
| 評価の観点                          | 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 資料活用の技能  | 知識・理解   | ※単元の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。 |              |  |
| 評価規準                           | 世界の人口、都市・村落に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、捉えようとしている。   | 世界の人口、都市・村落について、分布や動向などを系統地理的に考察し、人口、居住・都市問題を大観させて、その過程や結果を適切に表現している。                       | 世界の人口、都市・居住に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表等にまとめたりしている。 | 世界の人口、都市・村落について、分布や動向などとともに人口、居住・都市問題や、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。 |  |              |  |
| 時程                             | 学習活動   | 評価の観点   |  |   |  | 学習活動における評価規準 | 評価方法   |
|                                |  | 関   | 思  | 技   | 知  |              |  |
| 第1時                            | 【本時のねらい】<br>世界の人口分布について理解させるとともに、資料の読み取りを通した有用な情報を基に、地域によって人口分布が異なる要因についてまとめさせる。<br><br><本時における問い> 地域によって人口分布が異なるのはなぜだろうか。             | ・世界における人口分布の状況を、教科書や資料集を調べながらノートにまとめ、理解する。<br>・地域によって人口分布が異なる要因について、資料の読み取りを通してワークシートにまとめる。 | ◎  |   |  |              | ・ノート<br><br>・ノート<br>・ワークシート<br><br>※評価の実際についてはH24手引参照。 |
|                                |  |   | ◎  |   |  |              |  |
| 計14時間                          | 本単元での評価の機会   | 4回  | 4回   | 3回  | 3回   |              |  |

◆ 単元における評価の観点ごとの総括について

例えば、本単元における「資料活用の技能」の観点については、評価の場を第1時、第7時、第12時に設定した。なお、この観点については、学習の深まりにつれて成果が積み上げられていくという点に留意し、単元の後半における評価に重み付けを行い(第1時は20%、第7時は30%、第12時は50%)、総括を行うこととした(評価の総括については、本手引18ページ参照)。

# Topic

## 地理歴史科における資料等を活用した作業的、体験的学習

◆ 地理歴史科では、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮することが求められている。

高等学校学習指導要領では、地理歴史科の各科目において、地図や年表を読みかつ作成すること、各種の統計、年鑑、白書、画像、新聞、読み物その他の資料を収集・選択し、それらを読み取り解釈すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなど様々な学習活動を取り入れることが示されている。

### ◇世界史A、世界史B

年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること。

### ◇日本史A、日本史B

年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること。

### ◇地理A

地図の読図や作図などを主とした作業的、体験的な学習を取り入れるよう工夫すること。

### ◇地理B

地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献などの地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的、体験的な学習を取り入れるよう工夫すること。

### ▶博物館等を活用した取組例

#### 博物館見学を活用した「日本史B」の取組例

- 1 単元  
「(3) 近世の日本と世界」の「イ 近世国家の形成」
- 2 ねらい  
松前藩やアイヌを通して北方貿易等が行われたことに着目して、近世国家の特色や社会の仕組みなどについて考察させる。
- 3 本時の展開

| 指導経過 | 学習活動   |
|------|--|
| 導入   | ○松前藩やアイヌを通じた北方との貿易についての理解  |
| 展開   | ○長崎、琉球、対馬を通じたオランダ、中国、朝鮮との交流についての理解<br>・交流によってもたらされた産物<br>・我が国が受けた文化的影響や外交体制の変化 |
| まとめ  | ○幕藩体制の形成についての考察<br>・近世国家の特色や社会の仕組み   |

※ 博物館等の活用にあたっては、地域や学校、生徒の実態等に応じて、他教科や「総合的な学習の時間」などにおける学習と関連付けて実施することが考えられる。

#### ■博物館の活用例

##### 〈活用できる展示品例〉〈活用例1〉

- アイヌ文化
  - ・伝統的家屋（チセ）
  - ・伝統的衣服（アットゥシ）
  - ・サケ皮くつ
  - ・クマ神とクマ神用の首飾りなど
- アイヌ民族と和人との交易品
  - ・米俵と干鮭など
- 山丹服（蝦夷錦）
- 長崎俵物交易
  - ・串鮑
  - ・煎海鼠

##### 博物館見学

##### ↓

##### 本時の授業

●期待される成果  
本時の授業前における博物館の見学の成果を活用することにより、本時の学習への興味・関心を高めることができる。

##### 〈活用例2〉

##### 本時の授業

##### ↓

##### 博物館見学

●期待される成果  
本時の授業の後に博物館を見学して実物や複製品などの資料に接することにより、知識・理解の定着を図ることができる。

#### 資料の貸出制度を活用した「地理A」の取組例

- 1 単元  
「(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察」の「ア 地球儀や地図からとらえる現代世界」
- 2 ねらい  
地球儀と世界地図との比較、様々な世界地図の読図などを通して、地理的技能を身に付けさせるとともに、方位や時差、日本の位置と領域、国家間の結び付きなどについてとらえさせる。
- 3 本時の展開

| 指導経過 | 学習活動  |
|------|---|
| 導入   | ○日本の位置と領域についての理解<br>・世界各地から見た日本の位置の把握<br>・領土問題や経済水域の問題の理解                                       |
| 展開   | ○北方領土問題についての理解<br>・中学校での学習の確認<br>・ワークシートに歴史的経緯を整理<br>・四島の様子と元島民及び現在の島民の思いから北方領土問題についての理解（DVD視聴） |
| まとめ  | ○国境のもつ意義や人々の生活に及ぼす影響の考察   |

■北海道総務部北方領土対策本部の貸出制度を活用し、高校生が制作した北方領土問題啓発番組『その海の向こうに～私たちが録った北方四島～』（DVD・15分）を視聴

●期待される成果  
高校生が作成したDVDを視聴することにより、生徒が、領土問題をより身近に感じることができるとともに、島民の声を直接聞くことに近い体験をすることができる。

#### 【参考】博物館、資料館等の資料貸出制度の活用

各博物館や資料館等では、右の例のように、学校からの要望によって貸出可能な資料等がある（問い合わせが必要）

(例) 国立民族学博物館  
・こどものための、持ち運びできる小さな博物館「みんなぱく」の貸出が可能  
・「イスラム教とアラブ世界のくらし」「インドのサリーとクルター」「アイヌ文化にであう」など13種類のバックを用意  
参考URL <http://www.minpaku.ac.jp/research/sc/teacher/minpack/index>

●期待される成果  
関係団体の資料の貸出制度を活用し、より効果的な資料を提示することにより、関心を高めたり理解を深めたりすることができる。